

くしろ



ホームページ
はこちら

①

②

③

| 年次 | A農場 (空胎日数) | B農場 (空胎日数) |
|-----|------------|------------|
| 前年 | 136 | 109 |
| 1年目 | 116 | 93 |
| 2年目 | 101 | 86 |

④

★写真

- ①：PC等で状況確認
- ②：活用状況を農場に聞き取り
- ③：活動量センサー（頸部固定タイプ）
- ④：活動量センサー導入後の空胎日数の変化

活動量センサー活用で繁殖改善

普及センターでは、乳牛の発情や疾病兆候発見の補助ツールとなる活動量センサーの導入状況、活用事例と機能、利用料金などについての調査を実施しました。

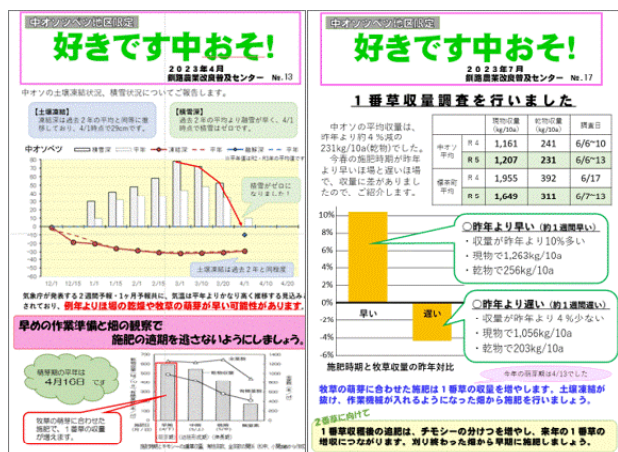
調査を行った農場は、飼養規模や形態は違いますが、微弱発情の発見や見逃しの減少などの効果を導入後の変化として実感しており、経産牛の空胎日数や発情発見率の向上、初産分娩月齢の短縮が確認できました。調査した内容はリーフレットにまとめ提供しています。

| | 所在地 | 電話・FAX | Eメールアドレス |
|----------------|------------------------------|--------------------------------------|---|
| 釧路農業改良普及センター本所 | 〒088-2313 川上郡標茶町常盤8丁目5番地 | Tel:015-485-2514 Fax:015-485-2249 | kusirokita-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp |
| 釧路東部支所 | 〒088-1365 厚岸郡浜中町茶内橋北東31番地 | Tel:0153-65-2021 Fax:0153-65-2037 | kushiroto-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp |
| 釧路中西部支所 | 〒084-0917 釧路市大楽毛127番地 | Tel:0154-57-8306 Fax:0154-57-4702 | kushirochu-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp |

ホームページアドレス : <http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

本所地域係では、重点地域において「自給粗飼料生産技術の改善」に取り組んでいます。今年度は、牧草の早春施肥を萌芽期に合わせて実施する適期施肥を情報誌「好きです中おそ！」などで呼びかけました。

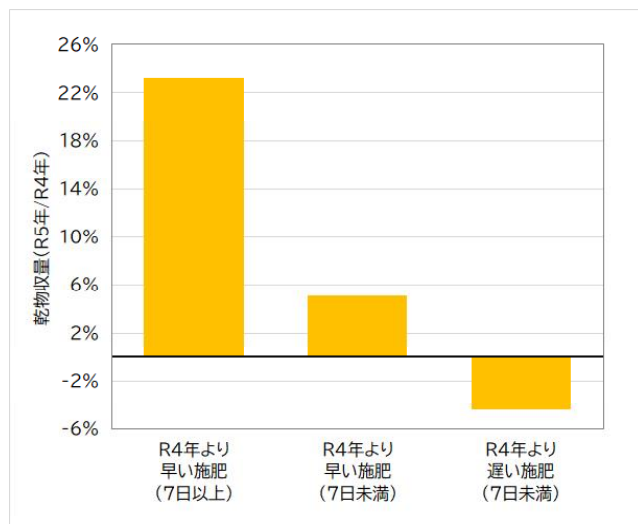
呼びかけの結果、改めて施肥時期の確認を行う農業者も見られました。令和5年の標茶町の萌芽期は、平年より3日早い4月13日となり、重点地域では5戸の農場が昨年より5日～14日早い施肥（4/22～5/3開始）に取り組みました。



情報誌「好きです中おそ！」

6月上～中旬の収量調査の結果、施肥を早めたほ場では、令和4年に比べ収量の増加が見られ、適期施肥の効果を確認することができました（下図）。

これらの結果を、懇談会や情報誌にて地域内に報告し共有を図りました。令和6年度以降も、適期施肥が地域に定着するよう、取り組みを継続します。



牧草1番草の早春施肥時期による乾物収量への効果（収量比：令和5年/令和4年、%）

令和5年11月28日に若松・系魚沢地区の農業者5名とJA釧路太田職員、普及センターで、先進事例を視察しました。

当支所は同地区において5ヵ年計画で飼養管理改善及び良質粗飼料確保をテーマに活動しています。今回はその一環として、高生産性牛群の泌乳期・乾乳期及び、ほ育期・育成期の飼養管理について研修しました。

視察先である根室市の(株)ミルクラウンと(株)タナカファームでは、「生産性の高い初

産牛作り」や、「搾乳牛の牛体回復」、「周産期疾病対策のための乾乳牛管理」などに取り組んでおり、年間12,000kg以上の個体乳量を実現していました。

参加者は牛を見ながら給与粗飼料や繁殖管理について活発に質問しており、生産性向上を目指すための有意義な時間となりました。

普及センターは今後も持続力のある酪農経営の実現に向けた支援を続けていきます。



(株)ミルクラウンでの視察の様子



(株)タナカファームでの視察の様子

推進事項の紹介

高付加価値化の取組紹介

生産コストの上昇による乳製品の値上げや消費低迷による生産抑制などを背景に、牛乳の価値を見直し、酪農家ならではの乳食文化の伝承や牛乳消費拡大に取り組んでいます。

令和4年のファームバリューアップ講座で「酪農家のチーズ作り」を開催し、チーズ工房白糠酪恵舎から「モッツァレラ」や「カチョッタ（1ヵ月熟成）」の作り方を学びました。令和5年は、「クエン酸を使った時短モッツァレラ」のレシピ（宗谷農業改良普及センター作成）をアレンジし紹介したところ、



クエン酸を使った時短モッツァレラ作り

3時間程度で作れる手軽さが好評を得ています。また、11月のファームバリューアップ講座では、既にチーズ作りが定着している農業者と交流しました。月2回チーズを作っている事例もあり「食卓にチーズがある暮らし」に刺激を受け、「帰って早速作りたい」とチーズ作りへの気運が更に高まりました。世代を超えてチーズ作りが酪農家の乳食文化として引き継がれていくことを願い、今後も支援していきます。



管内製造チーズを試食しながら交流

推進事項の紹介

だいこんを害虫から護る

JAしべちゃ（標茶町・釧路町）は「釧路ほくげん大根」のブランド産地であり、令和5年は169haの作付があります。しかし近年、冷涼な気候を好むヒメダイコンバエという害虫が発生し、幼虫による食害で生産物が廃棄されるなど、甚大な被害を受けています。

そこで普及センターでは、北見農業試験場や釧路総合振興局、釧路町、JAしべちゃ、ホクレンなどと協力して令和3年から3年

間、当地域での防除体系の確立を目指して活動してきました。この結果、①収穫残渣すき込み、②プラウ耕、③殺虫剤の体系防除（粒剤2回散布）、④べたがけ資材の被覆、などが有効だと成果が得られました。

今後はさらに、⑤連作緩和の緑肥導入を加えた、総合的な防除対策を生産者の方々とともに実施し、技術導入の手法を検討していきます。



生産者の現地研修会



関係機関の現地検討会

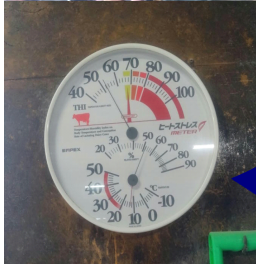
昨年の夏は酷暑が続き、生産乳量や乳房炎、繁殖などに大きな影響があったと思われます。ミストを利用したトンネル換気牛舎と、ソーカーシステムを利用したフリーストール牛舎の事例を紹介します（ミスト：細かい霧の気化熱で空気を冷やす 牛の被毛は濡らさない
ソーカー：牛体を濡らして気化熱で牛体自体を冷やす）。

<事例①：ミスト利用トンネル換気つなぎ牛舎 釧路市>



入気口は屋根上部にスリットで確保

入気口は餌通路と中央通路の3カ所を開放



入気口側からミストが散水される

温湿度計を牛舎に設置

- ・入気口にミストが出る
- ・牛舎温度は約5℃下がる
- ・入気口は餌通路2カ所と通路1カ所の合計3カ所解放されているが、屋根上部にもスリットが入っている
- ・11月でも外気温が10℃以上あれば入気口は開放していた
- ・排気側には20台の換気扇。奥に設置する場所が無かったため、牛舎横壁に設置

<事例②：ソーカーシステム利用フリーストール牛舎 鶴居村>



餌槽上部から通路へ向けて水が散水される



待機室のファンとスプリンクラー

- ・使い始めは散水時に音が鳴って牛がびっくりしていた
- ・温度が22℃以上になると1分散水、10分休むサイクルだが、26℃以上になると休む間隔が短くなる設定
- ・ミストに比べると湿度は上がらないと感じている
- ・牛の背中全体が濡れるが、乳房底面は濡れない
- ・別棟のフリーストール牛舎の待機室にもファンとスプリンクラーを設置した。これも効果あり

～暑熱対策は、換気（空気の入れ換え）と牛体を冷やす（ミストやソーカー、牛に風を当てるなど）ことの両面を考える必要があります～